

うっしっしいー情報2020

9月市



豊岡農業改良普及センター

9月9日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が69万9千円、雌が76万8千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	4	0.911	628,650	10	0.826	718,630	14	692,921
丹波篠山	2	0.902	620,950	10	0.882	829,620	12	794,842
丹波	15	0.939	673,200	12	0.856	683,558	27	677,804
朝来	10	0.991	718,080	8	0.845	752,813	18	733,517
播磨	11	0.963	673,200	26	0.826	721,854	37	707,389
美方郡	68	0.973	705,149	37	0.859	853,451	105	757,408
豊岡	8	0.961	696,025	21	0.848	710,024	29	706,162
養父	27	0.981	737,000	26	0.879	808,119	53	771,889
摂津・神戸	14	0.950	687,579	9	0.801	674,300	23	682,383
県北C	6	0.925	636,533	-	-	-	6	636,533
市場全体	165	0.965	698,807	159	0.850	767,572	324	732,552

9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	4	1.057	836,000	6	0.930	836,917	10	836,550
2	丸宮土井	4	0.961	737,825	10	0.822	831,820	14	804,964
3	芳悠土井	38	0.993	732,137	31	0.881	848,845	69	784,571
4	照忠土井	21	0.963	687,657	22	0.844	781,900	43	735,874
	総計	165	0.965	698,807	159	0.850	767,572	324	732,552
5	芳山土井	13	0.960	683,523	12	0.855	753,958	25	717,332
6	照和土井	23	0.959	691,374	16	0.854	748,756	39	714,915
7	丸池土井	11	0.978	683,100	15	0.823	710,673	26	699,008
8	宮菊城	7	0.987	679,643	8	0.865	714,313	15	698,133
9	丸春土井	19	0.906	663,011	23	0.817	694,626	42	680,324

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A++	A++	A	A++	A++
2	丸宮土井	C	B	A	A++	A+	A+
3	芳悠土井	A	B	B	B	B	A++
4	照忠土井	B	A++	A	A+	A+++	A+ → A
5	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
6	照和土井	A+	A++ → A+	C	B	A	A+
7	丸池土井	C → D	A++	C	A	A+	A++
8	宮菊城	A → A+	A+ → A++	A++	B	A+	A
9	丸春土井	C	C	B	B	B	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和02年8月現在)

育成牛の繁殖管理は、どうしていますか

～育成牛の管理①～

今年度は育成牛の飼育管理についてお伝えしていきます。今回は育成牛への初回種付けについて考えてみましょう。

1. 初産分娩月齢の現状

育種改良や子牛の飼育管理技術の向上により、子牛の発育が良くなった結果、全国平均では初産分娩月齢が早くなる傾向があります。一方兵庫県は、全国平均と比較して1か月ほど早く、24.5ヶ月前後で推移しています(図1)。但馬牛は全国の和牛と比較して、比較的早熟であるといえるかもしれません。

平成30年における兵庫県の初産分娩月齢の分布を見ると、25ヵ月齢以上の割合が25.3%と、実に1/4の初産分娩が遅れ気味であることがわかります(図2)。初産月齢の遅れは、育成コストの増加につながります。

ただ、注意すべきは初産分娩月齢を意識しすぎるあまり、体が十分に出来ていない育成牛に種付けすると、繁殖牛としての長期連産性を損なうことが考えられます。

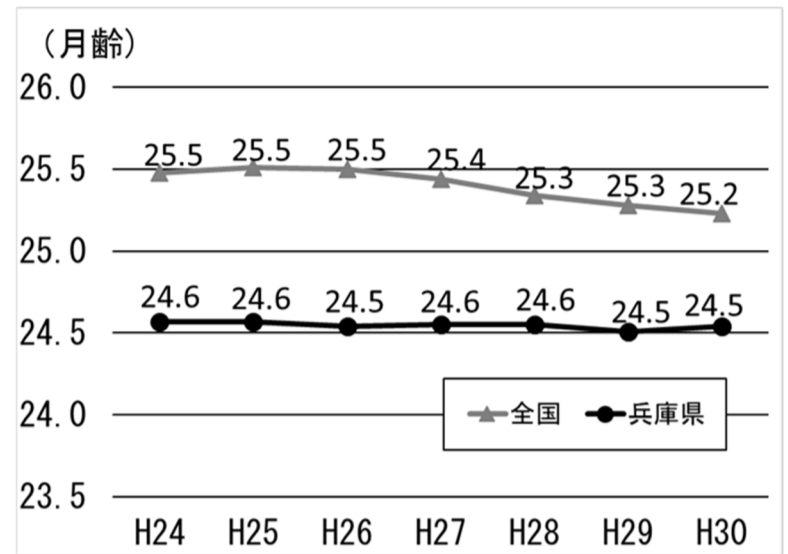


図1 初産分娩月齢の推移 (全国和牛登録協会より)

2. 育成牛として必要な発育(体高)とは

皆さんは何を考慮して育成牛を保留・導入していますか?自家保留を行う場合は、我が家の優良雌牛の後継牛として、市場を通じて導入する場合は、我が家にはない魅力的な系統でしょうか。もちろん、それも重要ですが、その牛が育成牛として適切な発育が確保されているかどうかを確認する必要があります。毎年行われる子牛の品評会や共進会では、必ず月齢に伴った発育が確保されているかを確認するために、体高測尺が行われています。皆さんも自家保留・市場導入を行う前に、標準的な発育が確保されているか確認しましょう。

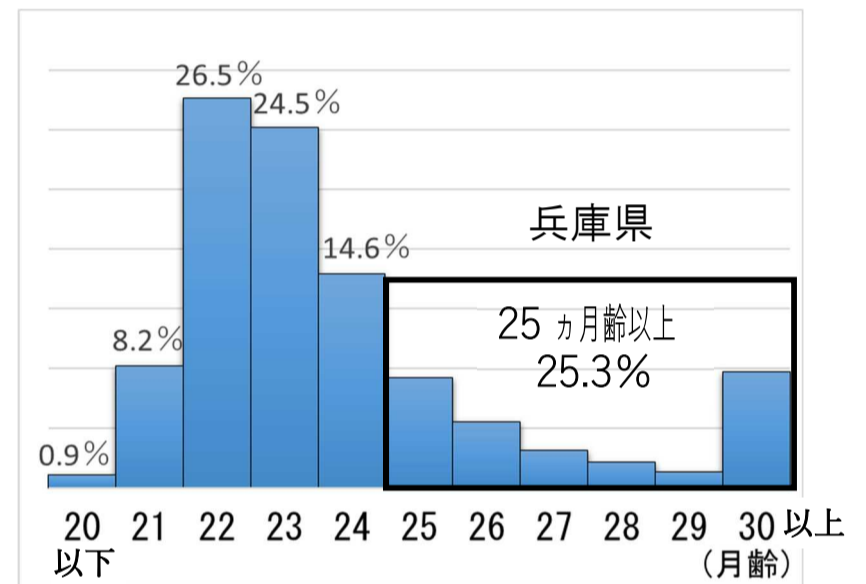


図2 初産分娩月齢の分布 (全国和牛登録協会より)

表1 雌子牛発育値

月 齢	体 高
7ヵ月齢	104.7 cm以上
8ヵ月齢	107.7 cm以上
9ヵ月齢	110.4 cm以上

(全国和牛登録協会)

全国和牛登録協会が7~9ヵ月齢の黒

毛和種の平均的な発育値を示しています

(表1)。少なくともこの数値以上の体高が無ければ、一般的に繁殖供用開始とされる13~14ヶ月齢において、最低でも必要とされる体高115cm以上を確保することは難しいでしょう。必ずこの数値を満たす子牛を育成牛として自家保留や市場導入を行いましょう。

3. 初発情の確認

育成牛の初回種付けは、初発情から3回以上の発情確認と21日の発情間隔を確認することが望ましいといわれています。3回の発情を確認するためには、初発情を確認してから63日(約2ヶ月)以上の期間が必要であり、14ヶ月齢までに受胎させるには、12ヶ月齢で初発情を確認しなければいけません。

初発情は、10ヶ月齢前後から12ヶ月齢頃までに始まりますが、個体差が大きいです。発情間隔も16日~24日程度とばらつきがあり、特に初期は間隔が安定しないことが多いため、観察と記録が大切です。また、初発情は、発情兆候が弱い牛が多いので、見逃さないように注意しましょう。

発情兆候は、午後10時頃から翌朝8時頃の時間帯に多く見られるといわれています。このため、寝る前や早朝に発情観察を行うと効果的です。

表2 主な発情兆候

- 落ち着きがなく行動量が増加する
- 他の牛から乗駕される(スタンディング)
- 外陰部の腫脹と充血等が見られる

まとめ(初回種付けの目安)

月齢だけを目安にせず、育成牛の発育を確認し、極端な早付けは注意

- ①月齢: 12ヶ月齢前後から発情観察 → 14ヶ月齢前後の種付けを目指す
- ②体格: 体高115cm以上になっていたら(115cm確認用の目印を、柱などに)
- ③発情: 初発情から3回程度の発情確認ができれば(人工授精後の再発情の確認も忘れずに)

※14ヶ月齢を過ぎても初発情を確認できない場合は、繁殖障害の可能性があるので獣医師に相談してください。